

人と企業とNPOをつなぐ市民情報紙
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

おっみネット

●発行日 / 2013年12月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

元気印 NPO ①

絆を結び、深める
広報紙づくり

まちづくり

宇根自治会
広報委員会

2

NPOのIT活用術
NPO法人びいめぐる企画室 ⑥

食菜倍 ⑤

世間よし〜企業の社会貢献〜

特集★OHMI視点 ①
自分達の住む地域の困りごと
自分達で解決する

元気印 NPO ②

地域のアート・
コーディネーター

芸術

特定非営利活動法人
アート NPO・ZOO

4

元気印 NPO ③

尊厳ある人生の
最後に備える

高齢者支援

シニアあんしん倶楽部 ⑥

自分達の住む地域の困りごとは、自分達で解決する

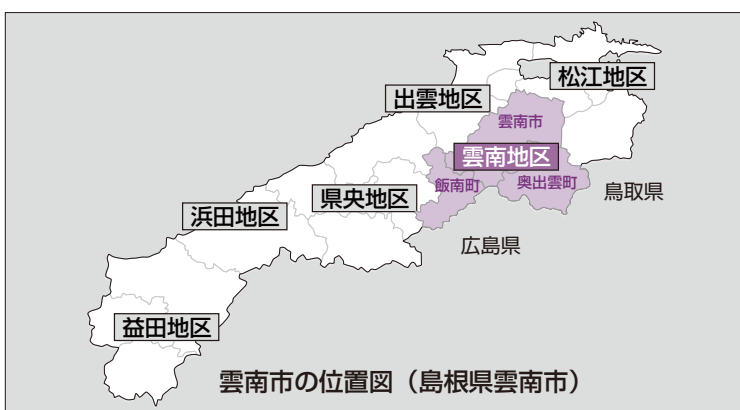
少子高齢化が進行する中、持続可能な地域づくりに向け、先駆的に、真摯に、そして着実にまちづくりを進められている島根県雲南市の「地域自主組織」の事例や、米原市大野木地区の取組について調査報告をしながら、これからの「住民主導のまちづくり」について考えます。

島根県雲南市の持続可能な地域づくり

「小規模多機能自治（地域自主組織）」の取組

●雲南市のまちづくり

雲南市は二〇〇五年に六町村の合併で生まれた、人口四万二千人のまちで、全域が過疎地域指定され、高齢化率は三三・九%、島根県平均の十年先、全国平均の二十年先を行くといわれています。二十年後には高齢者一人を現役世代一人で支えることになり、また、人口減少は加速度的にネットワーク（人間関係）の減少を招き、地域の崩壊につながる恐れがあることから、超高齢社会を地域で支え合うことのできる新たな地縁組織が



まちづくり現場訪問

1 地域自主組織「躍動と安らぎの里づくり鍋山」の取り組み

雲南市三刀屋町鍋山

地区のモデル的事業である

「まめなか君の水道検針」の紹介から。「まめなか君の水道検針中」と書かれた車が走る。目指すは見守りを必要とする要援護のお年寄りがいる家庭です。まずは水道検針を行ない、さらに「まめなかねえ（お元気ですか）」と声をかけお年寄りの様子をうかがいます。」と紹介パンフにあります。まさに、見守り活動と水道検針を一体化したシステムで、地域の安全安心が強化されるだけでなく、委託料収入も得られるという一石二鳥の仕組みができています。地域の住民からは「水道のことだけでなく会話も楽しい。健康についてのお話や、町の様子なども教えてもらえる。顔見知りの方が来て下さるのも安心。」といった声が聞かれ、「安全・安心の地域づくり」の実践といえます。事業としては上記以外に、交流事業にはじまり福祉事業、地域振興、防

▼躍動と安らぎの里づくり会長の秦美幸さん



災、さらには市、県のモデル事業の取り組み等様々な地域課題に果敢に取り組まれています。

◎鍋山地区の概要

●自治会…二十八自治会

●人口…一五二二人（世帯数四二九戸）

●高齢化率三三・九%（平成二十五年三月現在）

この鍋山は小学校児童数が十年前と比べ半減の五十四人と急速に少子高齢化が進展する地域です。

お話を伺った秦さんは、青年団活動、体協役員等の経歴を持たれ二〇〇六年に発足した地域自主組織の会長として、運営にリーダーシップを発揮されてきた大変パワフルな指導者です。

組織運営について、「各種団体の集合



代表●宇根自治会長
井口浩充(いのくち ひろみつ)
設立●1993年
広報委員●5名
連絡先●長浜市高月町宇根

顔が見える、 声が聞こえる、 地域の広報が絆を結ぶ

観音の里で有名な長浜市高月町にある宇根地区では、平成5年から毎月発行されている広報「ひろば」が全戸に配布されています。世帯数115戸、人口約500人の地区で、自治会の広報委員が作る広報が地区住民のつながりを深めてきました。



▲毎月1回の会議には、差し入れもあるそうです。広報委員のつながりも深まります。

広報の内容は、定番の自治会の行事、村の歴史や伝統などに加え、新春号は年男・年女全員の一年の抱負を掲載。1月号は新成人が宇根での思い出や将来のことを寄稿。2月は新自治会長のあいさつと役員の紹介。4月は小学校に入学した子どもたちと保護者からの一言。新しく赴任された駐在さんの紹介、高齢者のふれあいサロンの話題、祭や地蔵盆の様子などが笑顔の写真とともに掲載されています。240号を数える広報は地域の記録だけでなく、子どもたちを見守り、伝統を伝え、地域に生きる人々の思いを共有するものになっています。宇根地区には団地が3ヶ所ありますが、広報は新しい住民とのつながりづくりにも役立っているそうです。

今年の広報委員は男性5名。女性の広報委員がおられる年



▲今年の広報委員と自治会長さんです。

は女性目線の話があったり、その年の広報委員のカラーが出るそうです。毎月1回の編集会議では原稿の確認や次号の内容を打ち合わせますが、会議の後は飲み会になり、地域の様々なことを語る場になっているそうです。「原稿を書くのは大変ですが、語り合う楽しみがあることが継続のコツでしょう。」と広報委員の武田雅博さん。「ふれあいサロンや祭りの取材などに行くと、待っていてくれるのがうれしいです。」と広報委員の西嶋幸一さん。

地域の絆を結ぶ広報が、地域の文化として世代を超えてつながってほしいと思いました。

(おうみネットサポーター 坂下靖子)

●地域自主組織について

雲南市の「地域自主組織」は様々

住民主導で設立されています。滋賀県内の住民主導のまちづくりについては、自主・自立を期待する行政側と依存・支援を期待する地域住民の間に微妙な壁があり、そのことが地域単位のまちづくりの推進の壁になっているのではと感じていましたことから期待をもっての雲南市訪問です。

な人や組織、団体が連携を深めながら、地域の課題を自ら解決しようとするもので、基本的には小学校区をエリアとしています。大きなポイントは、次頁の図にあるように地域の生涯学習拠点となっていた「公民館」を地域づくりや地域福祉などの幅広い市民活動の拠点である「交流センター」に変え、地域の総合力で課題解決を目指すもので、「小規模多機能自治」とも呼ばれ、現在四十二組織、二十九のセンターが設立されています。

←次ページへ



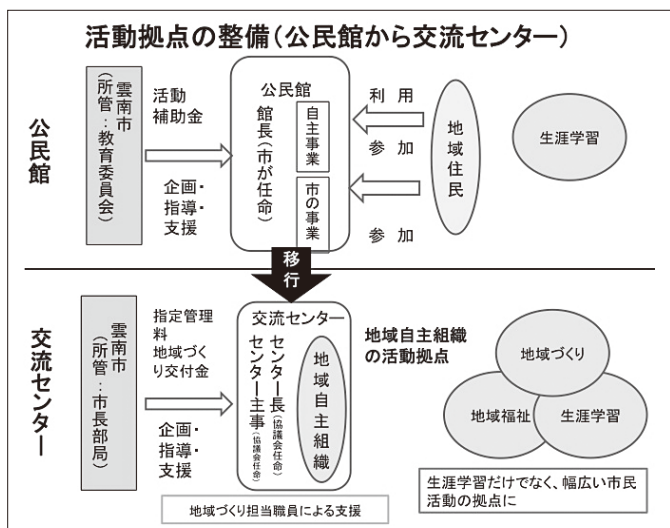
▲鍋山交流センター

「元々課 域づくり に対応で きる組織 づくりに 尽力され てきまし た。 さらに

組織的なものから住民主体の自治組織へと転換した。運動会などイベントはやめ、喫緊の地域課題に対応できる組織にシフトすべき。もう運動会で地域が一つになる時代ではない。」など、地域づくり に対応で きる組織 づくりに 尽力され てきまし た。 さらに

交流センターが設立されてから八年余りが経過した現在、交流センターの職員は地域自主組織が直接雇用するなどセンターと地域自主組織の一体化が一層進み、また防災や福祉など課題ごとに市と地域自主組織のメンバーが集まって対等な立場で議論する「地域円卓会議」が導入されています。住民側から「こんなことも自分たちに任せてくれ」といった要望が出るなど第二ステージに入りました。

まちづくりが住民主導で進む背景について、市の地域振興課の方



からは「継続的な住民主導のまちづくりの推進」や「超高齢化が進展する」という危機感の存在、さらには「昭和の時代から誰もが認めるモデル的な住民主導の自治会の存在」等を掲げていただきました。事前の調査では見えなかった、まちづくりの要素が今回の訪問で浮かび上がってきました。

今後は窓口サービスなど新たな公共の役割を担う分野について検討されるなど、文字どおり「ピンチをチャンスに」の発想で取り組まれています。視察ラッシュが続く中、市役所の皆さん、地域団体の皆さんには活き活きと説明いただき、また丁寧

に答えていただきました。時間差はあるものの高齢化の波が確実に押し寄せる滋賀の近未来社会にとって、雲南市の積極的な対応の姿は、大いに参考になるもので、今後とも注目していきたい先進事例です。

(淡海ネットワークセンター スタッフ 村井秀高、澤孝彦)

まちづくり現場訪問

2

地域自主組織「中野の里づくり委員会」が取り組む中野いこいの産直広場「笑んがわ市」

雲南市三刀屋町中野地区で平成二十三年六月から開かれている中野いこいの産直広場「笑んがわ市」を訪問し、同市を運営しているスタッフの方にお話を伺いました。

この市は、毎週木曜日の午前九時～午後二時(冬季は午前十時～午後二時)に開催。約百平方メートルのフロアに地元産の野菜やこんにゃくなどの売り場を設けているほか、隣の部屋には、コーヒーや緑茶などが一五〇円で楽しめる喫茶コーナーがあり、また、お茶請けとしてお手製の漬物や煮しめなども置かれ、取材時も高齢者を中心に大賑わいでした。

■「笑んがわ市」がオープンした背景

この中野地区には、地域の少子高齢化、過疎化などから起こる深刻な問題がありました。

◎中野地区の概要

- 自治会…十一自治会
- 人口…約六百人(全戸数は約二百戸)
- 高齢化率…三十八%(平成二十四年三月現在)
- 平成二十二年十月に中野地区唯一の商店であるJA中野店舗が閉鎖

- 平成二十二年 度中に中野幼稚園閉園、平成二十四年度中に中野小学校閉校



▲中野いこいの産直広場「笑んがわ市」

特に「笑んがわ市」立ち上げの一番のきっかけは、JA中野店舗の閉鎖でありました。地域の高齢者から、「買い物不便になった」、「中野老人クラブも解散し、地域の交流の場が少なくなった。」などの不満の声がかげられました。

しかしながら、このようなマイナスの声の中で、地元の女性グループから「空き店舗を利用して何か出来ないか」、「地元野菜や中野の特産品のこんにゃくを売ってみたらどうか。」などの活気あるプラスの声も出ました。

そこで、中野の里づくり委員会のメンバーが中心になり、JA空店舗を利用して何が出来るか、地域の特徴を挙げてみると、

- ①中野の里づくり委員会ふるさと振興部で手作りこんにゃくを作って販売できる。
- ②地区内のほとんどの家庭で野菜を作つ

芸術



特定非営利活動法人 アートNPO・ZOO

代表●西川 眞樹(にしかわ まき)
設立●2010年
メンバー●14名
連絡先●守山市浮気町321-3
駅前東住宅3-101
TEL: 080-3033-0221
E-mail: nishi-kmmm@hera.eonet.ne.jp

アートの力を通して 人の心に感性の火を 灯してゆく。



▲門脇篤氏と協働で開催した、大人も子どもも一緒に楽しむワークショップ

団体名に「アート」とつきますがメンバーの誰かが「芸術家」というわけではありません。どんな団体かを説明するときに、代表の西川さんも「いつもうまく説明できないんです…」というくらい謎めいたグループです。

そんな皆さんがよくさ

れているのが「未就園の親子サロンでの絵本の読み聞かせ会」。守山市内を中心に絵本の読み聞かせ・紙芝居・ペープサート・わらべ歌・手あそびなどを提供されます。メンバーの多くが子育て経験者であり「親と子が同じ時間・感じた事を共有する楽しさを大切にしたい。」との思いで開催されています。

でもそれは活動の一部。ある決まった芸術を広める活動ではなく、メンバーの得意分野や関心興味をもったアート活動を紹介し機会をつくるコーディネーターのようなもの、と西川さんは考えておられます。「例えば大きな和太鼓をみんなで聴く機会があったのですが、生の和太鼓の音はとて大きく、振動はおなかにズシンと響くものでした。その時感じた多くの事はテレビ越しに味わえるものではありません。また、それが日常生活に近い小さな場で、身近な人(例えば子どもにとってお母さんや近所のおばちゃん)が



▲お話し会の様子

関わっていることがおもしろい事で、その場限りでなく次々とつながり転がる可能性がある。」とのことでした。

「自分が全身で感じようとする事や感じた事を大切に出来る事の大切さ」を訴え、日々の生活の中にアートの持つ力が息づく火を灯す機会・きっかけを仕掛けていきたい…そんな活動をアートNPO・ZOOは目指しておられます。

(おうみネットサポーター 鹿田由香)

特集

Ohmi 視点

県内の移動支援

自分たちで声を上げ協力を求め、移動支援を実現

伊吹山の麓にある米原市大野木地区。人口約430人、高齢化率33.3% (平成19年度時点)、独居や昼間は老夫婦だけという高齢者が多い地域です。

この地区では平成24年4月年から「大野木長寿村まちづくり会社」を有志で立ち上げ高齢者訪問支援事業を行っていますが、平成25年度から高齢者移動支援を始めました。

移動支援を始めたきっかけは、訪問支援利用者からの要望でした。実現のために自分たちから米原市社会福祉協議会に協力を求め働きかけました。その結果、モデル事業として同社協と協定を結び、リフト車無料貸出や移動活動中の保険加入についての支援を受けています。

利用条件は団体規約に明記しており、現在の利用者は2名。利用者1名に対し2名の支援者(近所の人)がつき、利用時は直接支援者に声をかけてもらい、活動終了後に支援者が団体へ報告する仕組みになっています。

法律の中で出来る移動支援事業を、自ら行動し共感を得ながら活動を実現させた一例です。



大野木長寿村まちづくり会社(非法人)

米原市大野木1319
TEL: 0749-57-0789
E-mail: sssos570@za.ztv.ne.jp

▲大野木長寿村まちづくり会社のみなさん



▲大賑わいの喫茶コーナー

「笑いがわ市運営委員会」の立ち上げ、平成二十三年六月二十三日にオープン
このような特徴から、最終的には、閉鎖

る。(買物が不便な方のために利用できない)などができました。

ている。
③ 漬物や山菜の保存を上手にしている家庭が多い。
④ 中野地区は木曜日が生協の配達日になっていない

になるJA中野店舗を利用し、地域の活性化と住民の生きがいや交流の場をつくることを目的として、笑いがわ市運営委員会が立ち上げられ、平成二十三年六月二十三日に「笑いがわ市」はオープンされました。今では、産直野菜市だけではなく福祉とまちづくりの拠点として、行政に頼らなくても、運営できるサロンになったそうです。「何もしないと地域がさびれる。より多くの人が集う場に育てたい。」と笑いがわ市運営委員会の小田代表はこれまでの手応えを糧に、自分たちの力で次の一步を踏み出したいと話されました。

市民活動への期待

次代へよりよい地域環境を

私の勤務する株式会社平和堂では、地域社会の一員として、よりよい社会をつくるための取組みに注力しています。今回は平和堂が取り組んでいる「平和の森づくりと食育活動」をご紹介します。

森林は光合成によるCO₂の消費や蓄水、土砂災害の防止など重要な役割を果たしています。しかし現在日本では、安価な外国産材の輸入による国内林業の不振などが原因となって、手入れが行き届かない森林が増えています。そこで平和堂では2007年から森林保全活動「平和の森づくり」を展開し、滋賀・京都・福井・岐阜の4府県5地域で、社員のボランティア、家族、近隣住民の皆さんを中心に植樹・下草刈り・遊歩道整備などの森林保全に取り組んでいます。

また平和堂では、次代を担う子どもたちを対象とした食育活動に注力しています。「5ADAYスーパーマーケット食育体験」「産地収穫体験」「料理教室」の3企画を中心に取り組み、年間約2千人の参加となっています。

今後は今以上に、市民活動の一環として社会に貢献し、地域コミュニティの一役を担えるように取り組んでいきます。

私はこの生まれ育った滋賀が大好きです。自然環境よし、経済環境よし。そして、何よりもここに住む人々が手と手を取り合って、感謝の念を持ち続ける人間関係が深まる社会になって欲しいです。そのためにも一人でも多くの方が、形だけではなく真心がこもった市民活動に参加されることを期待します。



人と企業と NPOをつなぐ

HI・RO・BA



地域力を高める メッセージコーナー

株式会社平和堂

教育人事部長 本持 真二さん

世間よし ~企業の社会貢献~

企業に限らず、市民と行政、行政と企業などの、新しい市民協働（パートナーシップ）のカタチを紹介します。

SEKENYOSHI

食菜 倍

滋賀県草津市追分南4丁目6番10号 TEL : 077-561-8778 FAX : 077-561-9001
E-mail : info@masu.ne.jp URL : http://www.masu.ne.jp/

定休日のお店を活用して、ボランティアと障がい者団体への支援活動

今回は、2002年4月に開店した草津市追分町にある飲食店「食菜 倍(ます)」の店内と駐車場を、障がい者団体の商品販売の場所として貸していただける店長の高岡さんにお話を伺いました。

「きっかけは、お客さんの障がい者に対する心無い言葉を聞いたのに、自分としては何も言えなかったことです。直接注意することが難しいなら、障がい者への配慮が出来ている雰囲気をお店から発信することが出来るのではないかと思います。そこで、障がい者団体の関係者に相談をして、1年間テスト期間として定休日に無償で店内と駐車場を提供し商品販売をしてもらうことになりました。

障がい者団体に貸しましたが職員への負担が大きくなり続けられないという話になった時に、その団体のボランティアが『自分たちで続けたい。』と手を挙げてくれました。現在はそのボランティアで、偶数月第3月曜日に『街のバザール in kusatsu』を開催して



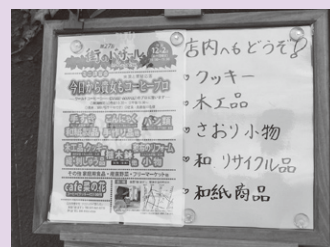
▲クッキーの講習会

います。バザールでは、県内の障がい者施設4団体がお店を出したり、地元の農家さんに無償でいただいた野菜の販売、講習会開催、フリーマーケットを開いたりしています。

チラシ作成、準備、運営などはすべてボランティアがやっています。交通費はなし、手弁当を持って、おまけに残った商品を買うこともあり、持ち出しが多いと思います。活動を始めて約5年経ちますが、それでも5年間続けてきてくれている人もいます。本当にありがたい存在です。」

最後に高岡さんは、「自分は場所を提供しているだけ。続けてこられたのはボランティアさんのおかげです。これからも定期的に、そして気長に続けていきたい。」と話されました。

今回お話を伺って、忙しいことを言い訳にせず、今の自分に来ることをまず考えてみるのが大切だと感じました。
(淡海ネットワークセンタースタッフ 牧野利花)



▲街のバザール in Kusatsu

代表●稲垣 忠(いながき ただし)
設立●2012年6月 会員●18名
連絡先●大津市皇子が丘2-10-25-2812
(代表 稲垣方)
TEL: 090-1904-8883
FAX: 077-525-1580
E-mail: saclub.shiga@gmail.com



「超高齢社会」への“終活”シナリオ — 尊厳ある人生の最期に備えて、 今をどう生きるか —



▲毎金曜日に開催されるスタッフ会議

「終活」(身仕舞い支度)。身に
摘まされる人も多いのでは…。
尊厳ある人生の最期に備えて、
今をどう生きるか?! 「超高齢
社会」を迎え“多死社会”も目前。

「これ以上の対策の遅れは許され
ない!」との熱い思いが結実し

たのが「シニアあんしん倶楽部」。ある団体で「終活」に関する活動をしていたメンバーが、活動を更に深く発展させたいとの想いのもと、「シニアあんしん倶楽部」を発足させました。会員18名のほとんどが福祉関係の活動歴を有するいわばこの道のベテラン揃い。基本理念は“個々の自助努力への支援”であり、その中身は“人生の最期を安らかに迎えらるよう、有益な情報とサービスをワンストップで提供することにある”と力説されます。

では、主要な取り組みを紹介しましょう。切り札のトップは、「あんしん手帳」の発刊です。いわば「母子手帳」のシニア版。この手帳に余命告知や延命治療告知などの本人の意思を明記しておくことによって、親は子を、子は親を思うまさに家族間の絆を強める糧として活用できます。



▲「身仕舞い支度講座」

そして極め付けは、「在宅介護・看取り」の啓発活動。ある調査によりますと、約6割の人

が「人生の最期は、家族に見守られながら想い出深い我が家で迎えたい!」という強い思いを持たれています。しかし現実には約8割の人が病院で亡くなられています。このギャップを埋めるためには「かかりつけ医(往診医)」の確保やさらには地域ぐるみで高齢者を見守る仕組みづくりが不可欠。また、高齢者とその家族の「在宅介護・看取り」に対する意識改革も重要です。そこで、晩年期を豊かに安心して暮らすためのノウハウを提供する「人生の身仕舞い支度講座」を“終活”シナリオの中心事業としてスタッフ全員が取り組みます。

人生の重い課題への挑戦は、まだまだ続きます。

(おうみネットサポーター 荒木威)

NPOのIT活用術!

NPO法人びいめ〜る企画室
<http://www.bmail.gr.jp/home>

情報発信ときっかけの提供で
滋賀を元気に!



滋賀県をもっと元気に、という思いを持った有志が集まり、滋賀の女性に役立つ情報と一歩を踏み出すきっかけを提供していこうと1997年に設立された「びいめ〜る企画室」。情報紙「びいめ〜る」を創刊し、地元密着の情報を紙媒体とインターネットで発信しています。その活動はメディアを飛び出て、コミュニティーカフェという出会いと交流の場の運営にまで広がってきました。「リアルタイムに」「不特定多数に」「ターゲットを絞って」「記録のために」など情報の特性に応じてツイッターやフェイスブック、ブログ、メールマガジンといったネットのメディアを使い分けしているという理事長の板山さん。パーソナルメディアが全盛を迎えるなか、従来の紙媒体は過渡期を迎えているとか。そんな中「びいめ〜る」の情報発信がさらにどんな形に進化していくのかも、注目されるようです。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

おうみ未来塾で学んだ
「子どもにつなぐ地域の明日
を見る思い」

Ohmi Miraijyuku Relay Essay

10期生 澤 とし江(さわ としえ)
グループ: おうみこっとな夢つむぎ

私の町には、「人」と「もの」はありますが、「資金」と「情報」が入りにくい状態でした。

おうみ未来塾では、地域の課題を見つけ、地域に入る難しさと、土地柄に適した活動の仕方を見つける大切さを学びました。また、2年目のグループ活動で動き始めた「おうみこっとな夢つむぎ」は今年で5年目になります。現在の活動には、年齢も幅広く、地域を超えて色々な人が集まっています。分野別に技術を磨いてきた団塊世代や、子育て最中の世代にも活動の輪に入ってってくれる人がいて、「情報関係」を担当してもらっています。それぞれの得意な技がつながり、企業との連携も始まりました。世代を超えて、地域を超えて、技術の継承と共に、時には人生相談にも話が弾みます。地域の労働の場として、また障がい者の方達に仕事を受けていただき、事業収入を上げ、助成金や補助金で不足を補っていく状態にすることが今後の課題です。

幼い頃、父母に言われた「井戸の上、下の使い分け」「川に流して良いもの、悪いものの区別」「人様が集って下さる家にする」等など、やっと今頃になって気がつきました。信仰や冠婚葬祭の形、河川や田畑の利用の仕方が変わって、人のつながりや地元の景色、そして、生活スタイルが変化してきましたが、父母が話していたことは、いつの時代にも人として将来に向けての大切なモラルだと思います。

色々な団体の活動のお話を聞くと、実践方法は違っても、「子どもにつなぐ地域の明日を見ている」思いは同じです。



イベント

おうみ未来塾12期生成果発表会・卒塾式

おうみ未来塾は、地域の課題解決に取り組む「地域プロデューサー」が育つ塾です。1年目は滋賀県の様々な地域でまちづくりなど市民による活動を学び、2年目はグループ活動としてフィールドに入り、地域の課題に取り組んでいます。今回、卒塾を迎える12期生のグループ成果発表会を行います。「地域プロデューサー」を目指すおうみ未来塾生の発表から地域づくりや市民活動を進めるヒントを見つけに来てください。

◇開催日：2013年12月15日(日)

◇時間：13:00～15:50

◇会場：県民交流センター 207会議室(ピアザ淡海)

◇発表グループ：おうみのふるさと物語プロジェクト、鹿深deござれ!、古ゞ屋(ここや)、8meets

寄付

未来ファンドおうみへ
ご寄付ありがとうございます。

このたび、積水化成工業株式会社様より、300,000円のご寄付を頂きました。

今回のご寄付は、昨年開設しました「積水化成工業基金」に組み入れ、琵琶湖や河川、森林の生物多様性の保全活動への支援を行ってまいります。

講座

NPOのための志金を考える

NPOも、認定NPO法人取得やファンドレイジングなど、寄付に関して積極的な展開をめざすところが増えてきました。今回のセミナーは、日本ファンドレイジング協会の認定ファンドレイザー選択研修「認定取得検定のための研修」として、受講ポイントが獲得できるセミナーを開催します。

寄付についての認識を深め、寄付文化が広がるためにも、ぜひご参加ください。

◇日時：2014年2月15日(土) 10:00～16:30

◇場所：県民交流センター 207会議室

◇参加費：研修1・2 各1,000円

◇プログラム

研修1 / 10:00～12:15

「寄付者へ向けて寄付税制を語る そのために必要なこと」

講師：脇坂誠也さん(税理士・NPO法人NPO

会計税務専門家ネットワーク・協会認定講師)

研修2 / 13:30～16:30

「ファンドレイジング戦略の立て方(入門編)」

講師：山元圭太さん(かものはしプロジェクト・協会認定講師)

※ポイント付と希望者については、氏名とE

メールアドレス、講座終了記録が日本ファン

ドレイジング協会に開示されます。

※詳細については、ホームページをご覧ください。

募集

未来ファンドおうみ助成事業
2014募集が始まります!

市民の想いを込めた寄付を市民活動へつなぐ未来ファンドおうみの助成事業の募集が始まります。個人や企業などからお寄せいただいた寄付を、市民活動に取り組んでいる皆さんにつなげていきます。

◇募集期間：2013年12月1日(日)～2014年1月19日(日)

◇助成期間：2014年4月～2015年3月

◇募集内容：

○助成事業

①おうみNPO活動基金助成

②びわこ市民活動応援基金助成

③びわ湖の日基金助成

④積水化成工業基金助成

NEW ⑤笑顔あふれるコープしが基金助成

○表彰事業

日本の元気なきずなプロジェクト基金

「淡海のつなぐ、ひらく、みらい賞」

○寄付支援事業(随時募集)

おうみチャレンジ基金助成

<募集説明会のご案内>

(1)米原会場：12月8日(日)10:00～11:30

米原公民館

(2)近江八幡会場：12月8日(日)13:30～15:00

アクティ近江八幡

(3)草津会場：12月8日(日)16:30～18:00

草津市立まちづくりセンター

(4)高島会場：12月10日(火)19:00～20:30

今津東コミュニティセンター

(5)大津会場：12月12日(木)18:30～20:00

淡海ネットワークセンター

(6)甲賀会場：12月14日(土)10:00～11:30

あいこうが市民活動ボランティアセンター

※詳細については、ホームページをご覧ください。

編集後記

取材後、地区の方で手作りされた冷水寺胎内仏資料館をご案内いただきました。賤ヶ岳の合戦で焼損した観音像を胎内に秘めた十一面観音がお祀りされている歴史を知ることができます。地域の宝をずっと受け継いで来られた人々の思いを感じることができました。
(おうみネットサポーター 坂下 靖子)

ともすれば、現代社会では軽視されがちになっている「感動」「気づき」「自ら動く力」。それらを、「日常の中で、アート力で取り戻したい。」「お話を伺う中でそんな熱い思いを感じとりました。」
(おうみネットサポーター 鹿田 由香)

「終活」の適齢期を迎える私自身の問題として、まさに身に適まされる思いで取材させていただきました。折から、「その時」に備えたハウツー誌の存在や高名なコメンテーターによるルポTV番組を目にし、「時代」がそこまできていることを痛感させられました。取材を通じて、新しい世界に触れることができたことに感謝しております。
(おうみネットサポーター 荒木 威)

淡海
おうみネット 88

●2013 冬号●



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801

大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

■TEL 077-524-8440

■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com

■E-mail:office@ohmi-net.com

開館時間 / 9:00～17:00

休館日 / 月曜日・祝日

●情報交流紙「おうみネット」は次のところに配布しています。

県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、びわ湖ホール、滋賀県国際協会、県内大学、県内NPO法人、県内市民活動センター、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、市役所、各地域環境総合事務所、県民情報室など

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌
「おうみネット」 掲載広告募集中!

★発行部数10,000部

★県内外の配布先約2,000カ所

★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円

詳細は、当センターまでお問い合わせください!



おたがいさまがつながり、生きる。

未来ファンド 個人の気持ち、企業のCSR
おうみ 様々な「志」を地域に支える市民活動へ、
しっかりつなぎます。

寄付をお考えの方、詳しい内容を知りたい方は、
淡海ネットワークセンターにお気軽にお問い合わせください。



この印刷物は再生紙を使用し、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。